令和6年度 稲沢市地域自立支援協議会 第4回就労支援部会 議事要旨

【日 時】令和7年1月21日(火) 午後2時～午後3時20分

【場 所】稲沢市役所 第一分庁舎 2階 第3会議室

【出席者】就労支援部会委員6名 事務局6名

【欠席者】なし

【議 事】

あいさつ(部会長)

1 協議事項

(1) 障害者雇用の普及促進、雇用企業と福祉事業所の連携強化

令和6年度 就労支援部会 報告(事務局から説明)

委員 A 企業交流会を開催し、企業と参加された関係機関含め50名、企業は26名で、前年度より増えた。アンケートの集計結果では、「有意義だった」、「ある程度有意義だった」という回答が多く、一定の満足度はあったのでは、と考えている。

部会長 活動報告について、質問等あるか。

委員 A 見学会のアンケートで、「今後、希望する内容及び、参加形態」について、「就労移行支援・就労継続支援A型・B型の取り組みを知る機会」を選択している人が12名いるのに、福祉事業所の見学会に集まらなかった。もう少し働きかけの仕方考えたほうが良いのではないか。実際、企業交流会に参加された企業の一つはイーネの見学をしたいとおっしゃっていたが予定が合わず実現しなかった。

委員 B 福祉まつりでの仕事体験の見学者は約450名もいたのか。

事務局 協議会のコーナーを見ただけの人も含んでおり、体験だけのカウントをしていなかった。来年度からは正確な数字が出せるようにしたい。

委員 B 例えば、会社紹介のブースがあったらご協力いただくことは可能なのか。

部会長 依頼があれば参加する。

委員 B 来場者に興味をもってもらわないといけない。例えば、企業向けに平日に開催してはどうか。会場もショッピングモールの屋上をお借りしてはどうか。そこで、企業の紹介や面談コーナーもあり、福祉事業所の即売会などがあれば一般の人も来られるし、企業も、人が来るなら出店してみようとなるのではないか。次回に向けて、そう考えてもいいと思う。アイデア次第で、そのイベント会場に行ってみたいと思っただけならば、企業側もメリットを感じるのではないか。

部会長 今、ご指摘があったように、福祉まつりで3年ほど前に相談窓口を設けたが、就労を考える企業がゼロで相談会が成立しなかった。開催場所や曜日を考え、来年度以降に検討してみるのも面白い。場所については事務局でも調査していただければと思う。参加したいと思えるイベントにしていけると良い。

(2) 次年度に向けて (事務局から説明)

部会長 来年に向けてのご意見をいただきたい。

委員 C 特別支援学校は今年で開校 11 年目になるが、6 年前から PTA 主催で事業所フェアを行っている。PTA、そして教頭が窓口となって、半年ほど前から少しずつ動いている。6 年前に開催し、その翌年からはコロナで中止となったが昨年再開し、勤労福祉会館にて校区内の事業所協力のもと、実施している。対象は本校生徒の保護者。盛大なもので、ブースもたくさん出ている。もともと保護者から声があがり、PTA が動いたもの。仕事があり、事業所を回るのが難しいご家庭が多いので、一堂に集まって話を聞けるのは、保護者としても助かるとの声がある。他校を確認したところ、PTA 主催で行っている学校は少ない。PTA 役員も年度ごとに変わるため、自立支援協議会と協力して行くと、より、進めやすいと思われる。

委員 D 障害者雇用率 UP に対して協力するというスタンスで、意見といえるほどのものは特にないが、参加者もあり、企業交流会などやって正解だったのだと思う。

部会長 数は増えたが、企業のかたにもう少し参加していただければより良いと思う。

委員 A 福祉まつりでは、はたらくフェアのような企画はないのか。

事務局 そのような相談者がいれば、事業所のかたも対応されるのでは。

委員 A お仕事体験コーナーがあっても、相談コーナーがあっても別に悪くはないのでは。

事務局 包括支援センターや成年後見センターも相談のブースということで出店しているが件数は少ない。会場が騒がしく相談に適した環境ではないかもしれない。

委員 A たくさんの事業所が参加されるフェアなら、就労支援部会だけではなく日中活動事業所連絡会などと連携してやるのはどうか。以前お話した半田市の企業懇談会・当事者交流会のチラシをお配りした。このイベントは対象者が広く企業も含まれている。いろいろなかたが登場し、自分たちの視点で見られる。一般就労したいという気持ちになるようなイベントだった。勤怠の安定や、挨拶・返事、体調管理について企業からの話もあり、そういう準備が必要だと思えるし、また、当事者がどう体調管理をしているかの説明もあった。非正規雇用だが、その場で正規雇用になりたいと言う場面もあった。第 2 部では企業向けと当事者向けのコーナーがあり、詳しい話が聞ける。これを超えるものを稲沢市でもぜひやりたい。一宮市の部会でも、やってみようかという話がでている。

部会長 就労支援部会で様々な活動をやってきたところではあるが、以前から当事者の参加がないという印象を持っていた。半田市の活動は当事者やご家族のかたも含めて非常に活発で、皆さん楽しく活動でき、効果があると思われる。来年、ぜひ障害者の当事者やご家族を含めた視点でイベントを考えていきたい。

委員 B 皆さんが同じ方向を向いてやらなければいけないが、企業側に参加したいと思わせるようなものがここから発信できるのであれば、もっと面白いことが仕掛けられると思う。

委員 D 就職相談会に特別支援学校からご参加いただいたのが、一番の成功事例だった。継続してほしい。企業向けの PR の仕掛けはつくるものの、まだまだ認知は低い。ただ、企業は人手不足で、その中でいろいろな人材をうまく使っていく上で、ニーズはあると思うし、地道に法定雇用率について会報誌などで企業に知ってもらい、危機感や意識を持っていただく努力を継続する必要があるのではないかと。部会長 今年度の部会はこれで終了となるが、今日の意見を検討し、事務局のほうでも来年度の活動内容を早めに着手できるよう準備に取り掛かってほしい。

2 その他

部会長 労働局へ行く機会があり、企業見学会において障害者や家族の参加はどうかという意見が出たことについてお尋ねした。特定の企業に決められた対象者を招いて企業対障害者という体制で、学校関係者、福祉関係者、A 型・B 型事業所のかたが参加するイベントであり、企業において障害者が実際に働いている現場を見て、企業で働くイメージをつけること、ハードルが高いと感じている企業の壁を低く感じていただけるようなイベントだと話したところ、その主旨であれば問題はないのではないかというのが、労働局からの回答だった。ただ、その集まりの中で企業側と、障害者、ご家族のかたの情報交換が行われるようだと、非常に微妙なことになるかもしれないため、事前のチラシ等やイベントの当日に案内するのであれば、問題はないとのこと。個別相談を入れると、趣旨が変わるため、そういう言葉はつかわないほうが良いという内容だった。労働局からの意見も検討した上で、来年の活動につながっていくと良い。